

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 9 月 15 日現在

機関番号：32711

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2014

課題番号：24510359

研究課題名(和文)表現をはじめの女性 ドイツにおける外国人労働者としてのアジア女性たちの調査研究

研究課題名(英文)Women begin to express themselves: Asian female guest workers in Germany

## 研究代表者

矢野 久美子 (Yano, Kumiko)

フェリス女学院大学・国際交流学部・教授

研究者番号：70308394

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、1960年代後半から70年代に韓国からドイツに派遣された看護師女性たちの経験を、調査・考察することを目的とし、ベルリンおよびハンブルク在住の元看護師の女性を対象に、労働運動、韓国人女性グループの結成と表現活動の持続、それぞれのライフストーリーについて、聞き取りを行い記録した。韓国人看護師派遣事業に関する資料を整理した。また、女性移住労働者の体験と表現活動の尊厳性と意味を確認した。さらに彼女たちの看護師としての身体経験、異文化体験、政治への応答、その後の活動を追跡し、ドイツにおけるディアスポラ・アジア女性労働者の体験を探り、ドイツの政治文化史にジェンダーに関わる新たな領域を開いた。

研究成果の概要(英文)： This study began as a purpose to examine the experiences of female nurses that were dispatched from Korea to Germany between the late 1960s to 1970s, in their political, physical, migrational, and artistic aspects. Specifically, it records interviews of former nurses residing in Berlin and Hamburg revealing the process of the labor movement, the formation of the Korean-German women community, the sustainment of their expressional activities, and the personal life stories of each individual. It is arranged by a collection of research data based on the Korean nurse recruitment operation(enterprise). Through this study, the dignity and significance embodied in these women's physical labor and expression activities can be affirmed. In addition to their experiences of physical labor, alien culture, and participation in politics, their later lives were closely followed and examined which proposes a new realm of the female gender roles in the Asian Diaspora community in Germany.

研究分野：ドイツ政治文化論 思想史

キーワード：移民 女性 ドイツ 韓国 労働 表現

### 1. 研究開始当初の背景

(1) 戦後ドイツが労働力確保のために活用した外国人労働者については、社会的葛藤や多文化共生という視点からかなりの研究が蓄積されている。しかし、そのうちの多くの議論は、トルコ人労働者とその二世・三世の問題を扱うものであるため、ヨーロッパにおけるイスラム文化の問題が中心を占めてきた。つまり、トルコ人労働者と同じように炭坑労働者として活用された韓国人男性や、看護師として国策的に「輸出」された韓国人女性の問題は、ほとんど度外視されてきた。本研究は、これまで注目されてこなかった「戦後ヨーロッパの研究におけるアジア的契機」に焦点をあてるものである。

(2) 女性労働力は、移民の中でも二重の意味でマイノリティであるが、労働移民における女性の比率は確実に増加している。こうした「移民の女性化」を担う女性たちは、自分たちの立場を確保し改善するために、移民先地域において「政治化」している。本研究は、フェミニズムやジェンダー研究に新たな視点を付け加えてきた移民女性の能動的現象をめぐる考察に、アジア女性の経験という観点から寄与しようとした。というのも、本研究が対象とする看護師の韓国人女性たちは、署名活動による滞在獲得といった政治的行為だけでなく、自らの表現活動を継続させ、記録化しているからである。

### 2. 研究の目的

本研究は、一九六〇年代から七〇年代に当時の西ドイツと大韓民国の政府協定により看護師として国策的にドイツに送られた韓国人女性の体験を a.政治と身体、b.移住とアートという二つの観点から調査・考察することを目的とした。彼女たちは、一九七〇年代後半、西ドイツの経済状況の悪化により韓国に送還しようとした際、署名活動などで抵抗を行ない、滞在権を勝ちとっている。本研究は、彼女たちの看護師としての身体経験、異文化体験、政治への応答、その後の活動を追跡し、ドイツにおけるディアスポラ・アジア女性労働者の体験を探り、ドイツ政治文化論に新たな領域を拓くことをめざした。

### 3. 研究の方法

上記目的を遂行するために、ナショナルイティと運用可能な言語が異なり、専門分野と学問的トレーニングが異なる研究者による共同的・学際的作業を行なった。具体的には、ドイツを主要なフィールドとしてきたドイツ政治文化論および思想史研究専門の矢野久美子と、韓国女性のアート表現を中心に研究してきた金恵信による緊密な作業である。さらには、ドイツの日本研究者であり、日本における韓国・朝鮮人文学とドイツにおけるトルコ人文学の比較研究に取り組んできたトリア大学講師のレナーテ・ヤシュケにも、在外研究協力者としてメールや電話をつう

じた研究支援を要請した。

具体的には以下の方法で作業を行なった。(1)事実関係の掘り起こしのために、韓国人看護師女性たちの国策的派遣事業に関する記録や報道資料(韓国語・ドイツ語)を入手し、検討すること。

(2)十分に準備したバイリンガル(韓国語・ドイツ語)的な聞き取り調査を、複数回行なうことによって、当事者たちと信頼関係を構築するとともに彼女たちの体験を収集し、事例の共通性や差異を明確化すること。

(3)韓国人労働者の経験を背景にしつつアーティストとして自己表現を行なっているソン・ヒョンソクの作品読解を行ない、美術史的な知見と分析を、ドイツ現代史の具体的な諸問題に関連づけて考察すること。

### 4. 研究成果

上記のような目的と方法によって研究を進め、当初の目的を達成することができた。新たに貴重な発見もあった。具体的な内容は以下の通りである。

戦後西ドイツが活用した外国人のなかには 18000 人におよぶ韓国人の労働者がいた。韓国人男性はトルコ人と同じように炭坑労働者として、女性は看護師として、戦後のドイツ経済の発展や戦後ドイツ社会を支えた。18000 人のうちの約 10000 人が、看護師の女性たちであった。この女性たちは、1966 年に第一弾が派遣された。最初は民間による募集であったが、1970 年には西ドイツ政府と韓国政府の間で正式な募集協定が結ばれた。

戦後西ドイツの病院での看護師不足は深刻で、閉鎖せざるをえない病院も少なくなかった。そうしたなかで韓国人看護師たちの到着は、ドイツの地方紙などで、「アーモンドの瞳」や「微笑み」といったアジア女性への典型的な形容詞を掲げた写真とともに紹介された出来事でもあった。彼女たちは母国で高度な看護教育を修めていたにも関わらず、言語や資格認定の問題から、韓国では看護師の仕事とは見なされない患者の入浴や排泄物処理などの業務を命じられ、酷使された。生活習慣もまったく異なる社会文化のなかでの身体労働は、彼女たちにとって試練であったが、その職務態度や能力の確かさから、次第に医師や患者の信頼を得て、欠かせない人材として病院業務に統合されていく。

1970 年代後半、そうした彼女たちの歴史が転機が訪れる。西ドイツの経済状況の悪化や看護師不足の解消により、10 年来働いてきた彼女たちの労働ヴィザが延長されなくなったのである。本国への送還を前にして、彼女たちは「私たちは商品ではありません。帰りたいときに帰ります」と主張し、署名活動を開始する。そして、同僚の医師たちや患者の応援、フェミニズム運動からのサポートも得て、滞在権を獲得した。さらには、その後も看護師としての労働の傍ら、グループとして自らの尊厳を回復される表現活動を行った

のである。

移民の女性労働力は二重の意味でマイノリティであることを余儀なくされてきたが、労働移民における女性の比率は確実に増加している。グローバル化に伴う「国際労働力の女性化」として「移民の女性化」も進んでいる。こうした女性たちは数が増えているだけでなく、自分たちの立場を確保し改善するために、行為主体として移民先で「政治化」している。こうした傾向はジェンダー研究においても注目されてきたが、韓国女性たちの表現活動はまだその文脈に位置づけられていない。本研究は彼女たちの活動の先駆性と現代社会でのその意義を確認した。

彼女たちの表現活動は、グローバル化社会における女性の連帯という観点からも範例として多くを示唆している。彼女たちは滞在権獲得後、いわばドイツという国外に拠点を確保することで、韓国政府や韓国社会に対して反省的な姿勢で望むことが可能になり、韓国民主化闘争や国際労働争議、慰安婦問題などに積極的にコミットする者も出てきた。本研究は、尊厳回復プロセスのなかでも彼女たちの政治的実践から多くを学ぶことになった。

「表現をはじめた女性」である彼女たちが表現しはじめたのは、社会に自らの場所を確保するプロセスであったとも言える。滞在権獲得運動は、ドイツと韓国の社会にそれまでの自分たちの労働や貢献を認めさせ、自分たちの存在を承認させる行為でもあった。とはいえ彼女たちの表現活動は、滞在権獲得というレベルにとどまらなかった。自分たちの物語を社会に認識させるためにグループを結成し、そのグループの存在自体を表明した。仕事や家事の傍ら、音楽や演劇などによって自分たちの歴史を表現し、さらにはその活動の記録を紙媒体で残している。それはまた、彼女たちの子どもたち、次世代の生を念頭に置いた行為でもあった。異文化におけるライフ・ストーリーを確認し、内省し、表現することは、持続する世界のなかで持続する世代の表現を守ることであった。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 4 件)

金恵信「故郷と異郷を行き来するブラッシュ・ストローク 在独韓国アーティスト、ソン・ヒョンソクの絵画」『研究報告書 「移動から見た女性美術家と視覚表象の研究」(平成23年度～平成25年度科研費基盤研究B、課題番号:23310191、研究代表者:北原恵) 査読無、2014、63-68頁。

矢野久美子「危機の時代の公私二元論」『理想』、査読無、No.690、2013、40-49頁。

矢野久美子「労働とジェンダーをめぐる覚え書き ドイツの韓国女性グループにつ

いて」『労働とジェンダー 映像の観点から』(2012年度フェリス女学院大学学内共同研究報告書)、査読無、2013、63-37頁。

金恵信「韓国国立現代美術館の徳壽宮プロジェクト展」『美術館連絡協議会誌』、2013、28頁。

〔学会発表〕(計 6 件)

矢野久美子「アーレントにおける物語りと共生」上智大学共生学研究会主催シンポジウム「女性と共生」、2014年12月6日、上智大学。

金恵信「朝鮮美術展覧会」にみる近代都市「京城」のおんなたち、国際フォーラム「20世紀前半、二重空間の韓国に生きた日韓の美術家たち」2014年10月11日、韓国文化院ハマンダンホール。

金恵信「朝鮮美術とその周辺の『描かれたおんなたち』」特別展「官展にみるそれぞれの近代美術 東京・ソウル・台北・長春」関連企画講演会、2014年5月31日、府中市美術館。

金恵信「《家は何処に》をさぐるブラッシュ・ストローク」開館40周年企画「アジアをつなぐ 境界を生きる女たち1984-2012」展シンポジウム「アジアの女性アートを考える」、2013年2月24日、栃木県立美術館。

金恵信「イ・ブルの韓国近現代史ルーム」公開コロキウム「アジアのアートとジェンダー・システム 「アジアをつなぐ 境界を生きる女たち1984-2012」展によせて」2012年10月20日、福岡アジア美術館。

金恵信「社会と歴史を着こなして見せるイ・ブルの表現と現代韓国」、2012年4月21日、森美術館。

〔図書〕(計 4 件)

矢野久美子、中央公論新社、『ハンナ・アーレント 「戦争の世紀」を生きた政治哲学者』、1-139頁、2014。

北澤憲昭・佐藤道信・森仁史編、東京美術、『美術の日本近代史 制度・言説・造型』、964頁、2014、金恵信「日本占領下における韓国の美術——一九一〇～四五年」、353-376頁。

細井保編著、法政大学出版局、『20世紀の思想経験』、213頁、2013、矢野久美子「なぜアーレントは戦後ドイツ語で『書く』ことができたのか」、10-29頁。

北原恵編著、青弓社、『アジアの女性身体はいかに描かれたか 視覚表象と戦争の記憶』、308頁、2013、金恵信「植民地期韓国のモダンガールと遊女」、151-169頁。

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称:

発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況（計 0 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

矢野 久美子 (YANO KUMIKO)  
フェリス女学院大学・国際交流学部・教授  
研究者番号：70308394

##### (2) 研究分担者

金 恵信 (KIM HYESHIN)  
大阪経済法科大学・研究員  
研究者番号：30448948

##### (3) 連携研究者

( )

研究者番号：